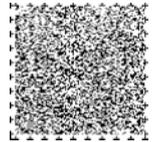


社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



Topia

第58号



〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-23-2720
Fax: 0853-23-2721
E-mail shien@heartpia.or.jp
ホームページ
http://www.heartpia.or.jp

<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

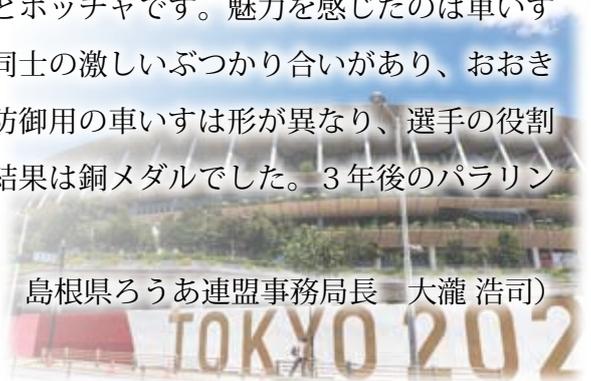
東京パラリンピックを振り返って

2020年東京オリンピックは昨年新型コロナウイルス感染拡大のため延期され、今年7月23日から8月8日まで開催されました。その後8月24日から9月5日まで東京パラリンピックが無観客で開催されました。

パラリンピックは車いす使用者だけではなく、すべての身体障がい者が参加できる「元国際身体障がい者スポーツ大会」でした。オリンピックは4年に一度、世界中でテレビ放送されて、スポーツ競技種目は33競技です。一方、パラリンピックは22競技539種目が行われ、今大会からバドミントンとテコンドーが新競技として採用されました。パラリンピックは初めてテレビを見て知りました。今まで、車いすテニスと車いすバスケットボールと卓球とブラインドサッカーと4種目見たことがあります。車いすテニス三木選手は出雲市出身でパラリンピック出場は3回目、個人トーナメント3回戦で、負けてしまい残念でした。

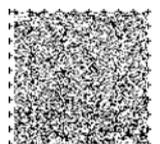
今回初めて見た競技はゴールボールと車いすラグビーとボッチャです。魅力を感じたのは車いすラグビーとボッチャです。車いすラグビーを見て車いす同士の激しいぶつかり合いがあり、おおきな衝突音が試合中何度もコートに響きました。攻撃用と防御用の車いすは形が異なり、選手の役割の違いに注目すると競技が更に面白かったです。日本は結果は銅メダルでした。3年後のパラリンピックも楽しみです。

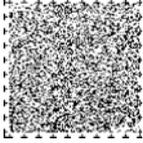
(文：ワークセンターフロンティア利用者 島根県ろうあ連盟事務局長 大瀧 浩司)



もくじ

- 東京パラリンピックを振り返って・・・・・・・・・・1 p
- 視線入力研修会の報告・・・・・・・・・・2 p～3 p
- 苦情件数について&大切にすること&新人紹介・・・・・・・・4 p





視線入力研修会を開催しました ～ご協力ありがとうございました！～

8月1日(日)、令和3年度島根県重症心身障害児(者)を守る会主催の療育キャンプ視線入力研修会の第3回をハートピア出雲で感染対策をした上で、開催させていただき終日大盛況で終わることが出来ました。

一般社団法人「できわかクリエイターズ」代表理事であり、作業療法士の^{ひきじ}引地晶久先生に来ていただき、講演、体験会を行い午前3組、午後3組とハートピア出雲スマイルを利用しておられる親子さんにも参加していただきました。

パソコン画面の下に視線を察知するアイトラッカーという装置を取り付け、本人(当事者)が見やすい場所にパソコンをセッティングすれば、準備OK。

風船割りや、お絵描き、選択した方の動画が流れるなど、従来の文字入力だけでなく、今では視線入力でマリオカートやドローンも飛ばせちゃいます。

どの子供さんも、しっかり画面を見てとっても上手に取り組んでくれました。本人がどこを見ているのかをこちらも確認出来るので、キャラクターのお腹ばかり見てる(笑)!姉弟の写真をしっかり追いかけてる!など、「ちゃんと見てる、ちゃんと分かってる」というのを周囲も知ることができます。

視線入力は「楽しい」や「できる」を増やし、知ることができるツールの一つとなる可能性を秘めています。



●視線入力で描いた絵画

そして日頃受動的な活動が多い中で、本人(当事者)が自分の目を動かしたら反応する!という自発的な活動に広がり重度の障害や発達障害をお持ちの方などの遊びや活動の可能性をどんどん広げてくれるものと思います。

体験されたご家族からは「初めての場所、初めての人に緊張するので今日はちゃんとできるか心配していましたが、しっかり視線を送りじっと見たりいろいろなものを見たりする様子が分かり、とても感動しました。今日の体験をきっかけに家庭でも導入できたらと思います、本当にありがとう

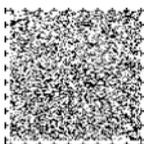
ございました。」と感想をいただきました。

以前体験されたご家族の中にはすでに視線入力セットを購入したご家族もいます。

守る会で購入した視線入力セットを現在ハートピア出雲に置かせてもらっています。興味のある方はぜひ実際に体験してみてください。

前日準備から協力していただいた職員さん、当日おもちゃの部屋をきょうだい児に解放してくださったり、山本施設長さんにも参加していただき、充実した1日となりました。ご協力、ありがとうございました。

(文：島根県重症心身障害児(者)を守る会 事務局 山田 温子)



視線入力研修会に参加して

ハートピア出雲スマイルを利用している重症心身障がい児は、表情や声などで何かしらのサインを出してくれる子供さんが多いが、世の中には「この子は、分からないのではないか」「何も感じていないのではないか」と意思の表出や感情の有無までも一方的に決められてしまうケースが少なくないと思う。これらの問題を、視線入力がすべて解決できるわけではないと引地氏も前置きされたが、「表現の自由」「個の尊厳」「能力の可能性」等、彼らが生きる世界が広がる為のツールである事は間違いないと感じた。

導入は、ゲーム感覚から始まるが、そのうち意思が示せたり、ゲームを操作することで他者と対戦することも出来る。マンツーマンの関わりが多い生活が「対戦」というシステムにより彼らの周りにコミュニティが生れる事になる。受け身で生きる時間だけでなく能動的に自由に表現できる場が確保されるのである。

体調や、生活リズムを大切にしながらも、家族や支援者にとどまらず、仲間、友達、もしかしたら初めて出逢った人とも繋がれることは、安全で安心して生きる事に「彩り」を添えてくれると考える。

今回、視線入力という新しい手段により、障がいをもつ子供や大人にとって楽しめるゲームを経験したり、新たにコミュニケーションをとる手段を獲得することができ、対象者の生活の質の向上が図れると思われる。今後もスマイルの活動の中で取り入れ、子供達が様々な活動を楽しめるようにしていきたい。

(文：ハートピア出雲スマイル 看護師 景山 良加)



「表現の自由」

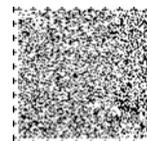
「個の尊厳」

「能力の可能性」等、

彼らが生きる世界が広がる為のツールである

●視線入力に興味深くお絵描きしている当事者の皆さん

※写真はご家族の了承を得て掲載させていただいております。

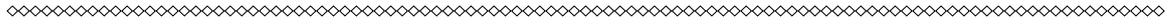


◆苦情の解決対応について◆

令和2年の間に苦情件数は0件でした。

今後も引き続き、意見箱の設置や利用者会議の開催、保護者アンケートの実施等を通じて、寄せられたご意見ご要望を大切にサービスの上昇に努めてまいります。

(施設長：山本 順久)



「大切にすること」

以前、がん患者さんの勉強会について掲載されている新聞記事を見かけたことがあります。その記事にはがん患者さんを対象として定期的に開催されていた勉強会が新型コロナウイルスの流行により開催出来なくなった事が書かれていました。がん患者さんにとって勉強会は互いの気持ちを分かち合ったり、悩みを相談出来る大切な場所であるにも関わらずコロナの影響で大切な場所での人との関わりが出来なくなってしまったそうです。

その後も皆で集まった勉強会の開催が出来ない時期が続いたためオンラインを使つての勉強会が始められました。そしてオンラインを使う事により今までの勉強会では出会っていなかった遠方の方とも繋がる事ができたそうです。

がん患者さんがコロナに感染した場合、重症化する可能性がある事を不安に感じられる方は多いと思いますが、命を守りながらも人との繋がりも大切にしていかなければいけないと改めて感じた記事でした。

また、この記事を読んで私達が普段関わっている方々についても同じ事が言えると感じました。感染を防止し命を守る事を一番に考えながらも、まだまだ先の見えない今だからこそ、人との繋がりやその人が大切にしている事に、より一層目を向けていく事が支援者にとって必要な事だと改めて感じています。そして、がん患者さんがオンラインで勉強会を開催した事でこれまで以上につながりが広がった様にピンチをチャンスに変えていけるような取り組みが出来ていければと思います。

(文：相談支援事業所ハートピア出雲 相談支援専門員 川上 ゆかり)

よろしくお祈いします！～新人職員の紹介～



9月より放課後等デイサービスの運転員として入職致しました、原亨です。

児童の方の送迎は初めてで、戸惑うこともあります孫のように思えて笑顔になることもあります。

どうぞよろしくお祈い致します。

10月よりハートピア出雲デイセンターの看護師として入職しました三成理絵と申します。3月まで大学病院で勤務をしていました。地域に密着し、一人ひとりのご利用者とその家族に寄り添いながら、暮らしと健康をサポートしていけるよう心がけていきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈いいたします。



三成 理絵

編集後記

◆1963年に発売し世界中で1000億本が売れたという小型で安価な記録メディアのカセットテープ。その開発者であるルー・オッテンス氏(オランダ人)が3月に94歳で他界されました。私も若いころは愛用し、たくさんの音楽を楽しんでいました。曲を選ぶのに早送り、巻き戻しをするのは少々面倒くさいですが、デジタルにはない音の厚み、温かみは魅力的でした。あとデザイン性も優れていて再生させるとカセットがまるで二つの目がクルクル回っているように見えて愛らしいのもがありました。 【編集長 米山】

